

2026年3月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)



2025年11月14日



1. 2026年3月期 第2四半期 決算 トピックス



2026年3月期 第2四半期 決算ハイライト

1 再生可能エネルギー事業にて初めての収益計上

着手していた太陽光発電所の権利売買契約が契約締結となり、2023年12月に新規事業として着手し、初めて収益が計上されることとなりました。当該事業の市場環境及び収益性を踏まえ、グループ全体での収益基盤の拡大を図ることを目的としてさらに事業を拡大してまいります。

以上の結果、売上高434,095千円、セグメント利益18,493千円となりました。

2 営業損益は、△87百万円、最終損益は△71百万円

店舗事業では、原材料費、人件費の高騰など販管費の増加により収支が悪化、セグメント利益は5百万円（前年同期はセグメント利益75百万円）。卸売事業もノロウイルスの影響などで、牡蠣の供給が不安定となり減収となるが、販売先数の拡大効果により、セグメント利益は50百万円（前年同期比4.8%増）。親会社株主に帰属する四半期純利益は△71百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失23百万円）。

3 通期配当は10円を予定

株主優待制度を2024年9月末で廃止した一方、株主還元に関しては、連結配当性向30%を基準としつつ、1株あたり10円を目安として配当を継続して行う方針に変更。

4 3店舗（港区1店舗、品川区2店舗）新規出店予定

2026年3月期末までに、3店舗（港区1店舗、品川区2店舗）の新規出店に向けて準備を進めてまいります。

2025年3月期 第2四半期 概要

売上高は2,152百万円（前年同期比15.1%増）と増収。営業損益は店舗事業が原材料費や人件費の高騰などによる販管費の増加により87百万円の営業損失（前年同期は70百万円の営業損失）。

親会社株主に帰属する四半期純損失71百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失23百万円）。

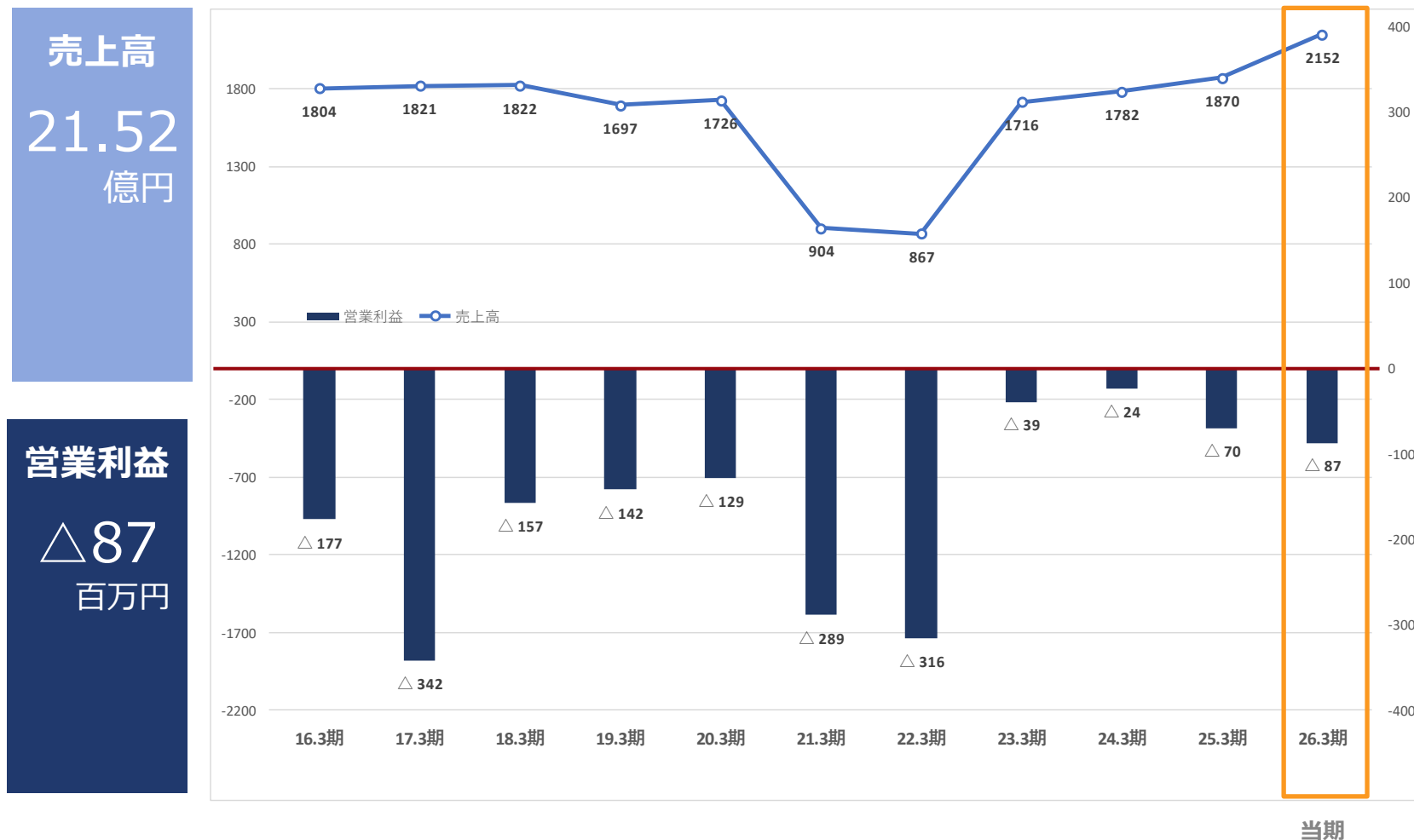
	2020年3月期 第2四半期 (参考・コロナ前)		2025年3月期 第2四半期		2026年3月期 第2四半期		前年同期比 (%)
	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)	
売上高	1,726	100.0	1,870	100.0	2,152	100.0	282 (+15.1%)
売上原価	613	35.5	691	37.0	987	45.9	296 (+42.8%)
売上総利益	1,112	64.4	1,178	63.0	1,165	54.1	△13
販売管理費	1,242	71.9	1,249	66.8	1,252	58.2	3 (+0.2%)
営業利益	△129	△7.4	△70	△3.9	△87	△4.0	△17
経常利益	△129	△7.5	△73	△3.9	△89	△4.1	△16
特別利益	-		0		-		
特別損失	-		-		-		
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△113	△6.5	△23	△1.2	△71	△3.3	△48

- 1 店舗事業の
販管費が前年
より増加
- 2 店舗事業の
営業損益はコスト増
により収支が悪化

第2四半期 連結業績について

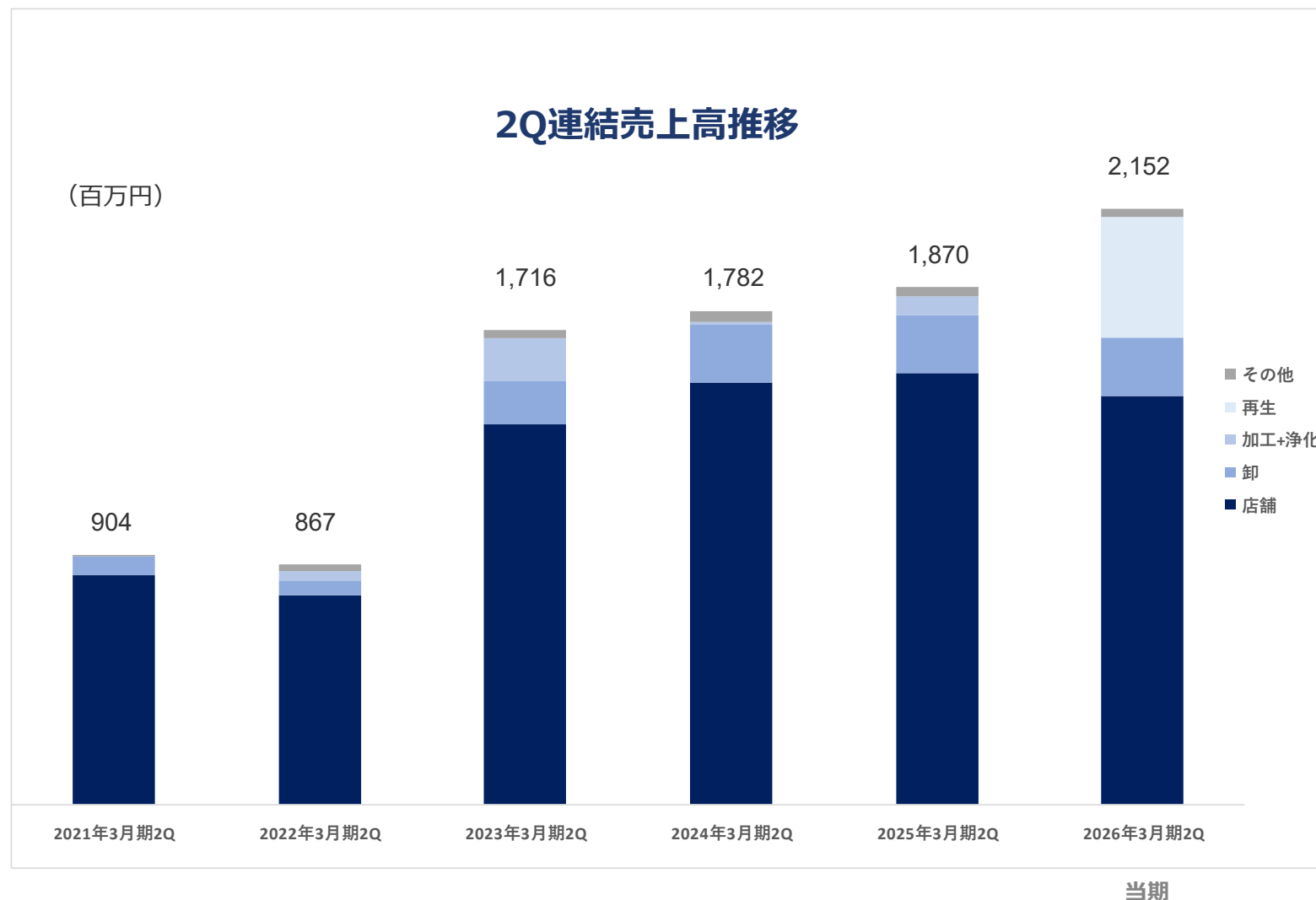
売上高は、再生可能エネルギー事業に初めての収益計上により増収。また営業損益は、店舗事業の原材料費や人件費の高騰などによる販管費の増加をカバーできず、四半期営業損失87百万円（前年同期は四半期営業損失70百万円）。

（単位：百万円）



第2四半期 連結売上高推移

グループ全体では、前会計年度の第4四半期（1月から3月）にかけて、ノロウイルスが蔓延し、当社の安全基準を満たした牡蠣の調達が十分にできなかったことに併せて、感染性胃腸炎の流行もあり機会損失が発生。一方、2023年12月より新規事業として着手しておりました再生可能エネルギー事業において初めて売上計上することができました。その結果、売上高は2,152百万円（前年同期比15.1%増）となりました。



貸借対照表概要

2025年9月期末の総資産は28.81億円、前期末比-4.59億円。
自己資本は14.63億円、自己資本比率は50.8%。引き続き、収益力を高め、財務基盤の強化を図る。

(百万円)	2025年3月期 期末	2026年3月期 第2四半期		2025年3月期 期末	2026年3月期 第2四半期
資産の部			負債の部		
流動資産	2,173	1,583	流動負債	1,113	639
現金及び預金	1,220	893	買掛金	103	107
売掛金	181	222	短期借入金 ^{*1}	80	80
原材料	73	79	その他	929	452
未収入金	3	-	固定負債	815	777
その他	691	388	長期借入金	289	249
固定資産	1,167	1,298	その他	525	528
有形固定資産	767	867	負債合計	1,929	1,417
その他	10	11	純資産の部		
投資その他資産	388	419	株主資本	1,411	1,455
敷金及び保証金	284	306	その他	△0	△0
その他	104	113	純資産合計	1,411	1,463
資産合計	3,340	2,881	負債純資産合計	3,340	2,881

*1．1年内返済予定の長期借入金を含む

2026年3月期第2四半期 セグメント別業績概況

店舗事業の営業利益は、原材料費や人件費の高騰などで収支が悪化し、セグメント利益5百万円。卸売事業も売上を伸ばせず減収となったが、販売先数の拡大が寄与し、セグメント利益50百万円を計上。

セグメント売上高

セグメント利益

(百万円)	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	前年同期比	増減率
店舗事業	1,557	1,477	△80	-5.1%
卸売事業	210	208	△2	-1.0%
加工事業	85	70	△15	-18.3%
浄化事業	416	425	9	2.2%
再生可能エネルギー事業	—	434	434	—
その他 ※1	31	28	△3	-9.7%
調整	△431	△491	△60	-13.9%
合計	1,870	2,152	282	15.1%

(百万円)	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	前年同期比	増減率
店舗事業	75	5	△70	—
卸売事業	47	50	3	6.4%
加工事業	△28	△15	13	—
浄化事業	△21	△16	5	—
再生可能エネルギー事業	—	18	18	—
その他 ※1	△5	△1	4	—
調整	△138	△129	9	—
合計	△70	△87	△17	—

*1 : EC通販など

*1 : EC通販など

2025年5月、FC3号店として「8TH SEA OYSTER Bar 和歌山店」をオープン。一方、前連結会計期間（2025年1～3月）の終わり頃から今期の夏場にかけて、ノロウイルスが蔓延し、当社の厳しい安全基準を満たした牡蠣の調達が十分にできず、繁忙期に機会損失が発生しました。この影響が当中間連結会計期間においても継続したこと、また原材料費および人件費の高騰により、収支が悪化。

(百万円)	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	前年同期比	増減率
売上高	1,557	1,477	△80	-5.1%
営業利益（*1）	75	5	△70	—
営業利益率	4.8%	0.3%	△4.5pt	—

*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

店舗事業（出退店及び店舗数について）

FC新規出店1店舗

⇒2025年9月末全店舗数：30店舗（直営：27店舗、FC：3店舗）

	2025年3月期 期末 店舗数	増減数		2024年 12月末 店舗数	業態変更
		出店	退店		
直営店舗 合計	27	0	0	27	
FC店舗	2	1	0	3	
全店舗店舗 合計	29	1	0	30	

新規出店1店舗の主な内訳

・主要ブランド「8TH SEA OYSTER Bar」

（FC店舗） 和歌山店（2025年5月）

第2四半期にノロウイルスの影響で売上鈍化となったが、食品展示会への出展など、新規の卸先開拓による販売先数の拡大により、セグメント利益は増収となった。（前年同期比4.8%増）

(百万円)	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	前年同期比	増減率
売上高	210	208	△2	△1.0%
営業利益（*1）	47	50	3	6.4%
営業利益率	22.4%	24.0%	1.6pt	—

*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

店舗事業のセントラルキッチンとしての役割が主でありましたが、2021年5月より海産物の受託事業を開始しました。受託事業により、本セグメントの収支改善が進み、本セグメントの赤字幅は縮小となりました。

(百万円)	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	前年同期比	増減率
売上高	85	70	△15	△18.3%
営業利益	△28	△15	13	—
営業利益率	—	—	—	—

*1. セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

浄化事業では、収益の改善に向けて直営店舗に対する販売価格の見直しを行いました。

(百万円)	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	前年同期比	増減率
売上高	416	425	9	△2.2%
営業利益	△21	△16	5	—
営業利益率	—	—	—	—

*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

再生可能エネルギー事業では、事業に着手していた太陽光発電所の権利売買契約が契約締結となり、2023年12月に新規事業として着手し、初めて収益が計上されることとなりました。当該事業の市場環境及び収益性を踏まえ、グループ全体での収益基盤の拡大を図ることを目的としてさらに事業を拡大してまいります。

(百万円)	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	前年同期比	増減率
売上高	—	434	—	—
営業利益	—	18	—	—
営業利益率	—	—	—	—

*1. セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

2. 今後の取り組みについて



2026年3月期の経営戦略の見込み

禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	進捗状況	活動計画
『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	△	店舗事業の原材料費、人件費の低減に取り組む
再成長に向けた 『攻めの取り組み』	「EC通販の強化」など 販売チャネルの多角化	○	利益効率を考えた、告知活動へと切り替え収益性を上げていく。
	店舗事業の収益拡大	△	利益体質はさらなる強化を目指し、新規ブランドを立ち上げていく。
	国内卸売事業の収益拡大	△	付加価値を向上させ、更なる増収増益へ。
	加工事業による収益貢献	△	店舗事業のセントラルキッチン化目指して、収益性を上げていく。
	店舗事業のITを活用しての効率化	△	引き続き、推進
	再生可能エネルギー（太陽光事業）への参入	○	2026年3月期下期から収益化の予定

3. 2026年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

オイスターの安心安全の高付加価値化の実現し既存事業の立て直しと、再生可能エネルギー事業（太陽光）など新たな成長軸をプラスさせ、持続的成長の実現と企業価値の向上を図ってまいります。

(百万円)	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 連結業績予想	前年同期比 (%)
売上高	3,926	5,184	+1,257 (+32.0%)
営業利益	3	187	+183 (+5,314.0%)
経常利益	2	186	+18 6 (+9,163.%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△20	130	+150



免責事項

本資料に記載されている将来に関する内容は、当社グループが資料作成時点において入手可能な情報に基づいたものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。

特に当社グループの事業領域は、一般的な経済状況以外にも業績に影響を与えうる要因が数多く存在しているため、実際の業績等は様々な要因により将来の見通しと異なる場合があることをご承知おきください。